

学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

図1 北海道大学の機関リポジトリ



AIRway — 学術文献への新たな航路

杉田茂樹

●研究者はグーグルを使わない？

「機関リポジトリに論文を登録すると、グーグルなどから検索、利用できるようになります。」

「私たち教員は、研究のための文献を探すときは、普段、グーグルじゃなくて、専門分野の文献書誌データベースを使うのですが、それからはアクセスできないのでしょうか？」

筆者の勤務する北海道大学での、私たち図書館司書と研究者との会話である。平成一七年八月二二日のことだ。当時、北海道大学は機関リポジトリを設立したばかりだった。できるだけ多くの執筆文献をそこで公開してもらおうと、私たちは北海道大学所属の研究者へのプロモーション活動を盛んに行っていた。

専門学術誌に研究論文を発表するのと同じに、それを機関リポジトリにも載せてオープンに公開しませんか。そうすれば、その専門学術誌を購読していない大学の研究者の方々にも著作を届けられます、というのが私たちの説明の肝だった。

さきの質問はこたえた。指摘の通り、文献書誌データベースと機関リポジトリとはつながっていなかった。グーグル等のインターネット検索サイトから検索できるようになっても、それだけではなかなか他大学の研究者からは使ってもらえない、というわけである。

実はグーグル等のほかに、各地の機関リポジトリをひとまとめにして検索できるサービスもある。国内機関リポジトリの統

合検索サービスとしては別記事で紹介されている国立情報学研究所のJAIROがあるし、海外では米国ミシガン大学の運営するオイスター (Oyster) や、スイスのザンクト・ガレン大学の運営するサイエンティフィック・コモンズなどがある。また、欧州の文献が中心となるが、EUのドライバー・プロジェクトでは、文献ジャンルや学問領域別の閲覧機能を備えた高機能ポータルサイトが開発中である。しかしこれはいかせん知名度は高くない。

本当であれば、専門学術誌のオンライン版 (電子ジャーナル) と機関リポジトリが同時に検索できれば便利なのであろう。

文献書誌データベースで見つかった論文へのアクセス権 (自分の所属組織によるその電子ジャーナルの購読契約) があれば電子ジャーナル上の正本版にワンクリックでアクセスでき、なければ、その代替品として、ひよっとしたらレイアウトの美しさは若干劣るかもしれないが、無料で閲覧可能な機関リポジトリバージョンに行き着ける、そのようなサービスがあるといいと私たちは考えた。



学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

● リンク・リゾルバ

インターネット上の各地に分散した文献の情報を組織化することは、機関リポジトリ上の文献に限らず、電子ジャーナルの世界でもしばらく以前には難しかった。しかし、ここ数年の間に、リンク・リゾルバ（接続先紹介システム）というタイプの仲介サービスにより、状況は改善されつつあった。

リンク・リゾルバとは、文献書誌データベースの検索結果に対し、世界のどこかにある、その文献本体へのリンクボタンを自動生成してくれるシステムだ。

このサービスが成立するためには、どの文献のフルテキストがインターネット上のどこに在るかという情報がどこかに集められていないといけない。そのために、リンク・リゾルバの内部プログラムの中で活躍しているのが、クロスレフ（CrossRef）だ。クロスレフは各出版団体の協働によって設立された非営利団体（及び同名サービス）である。各社、各学会が自分の刊行する電子ジャーナルの掲載文献の情報を持ち寄ってデータベース化している。これを組み込むことにより、ある雑誌の何巻何号の何ページに載った論文はこれこれの電子ジャーナルのどのページにあるとわかるので、リンク・リゾルバは該当文献本体へのリンクボタンを表示できるというわけだ。とすると、クロスレフが電子ジャーナル情報を集積しているのと同じように、機関

リポジトリ上の文献情報を集積し、それがリンク・リゾルバの内部処理に組み込まれば、文献書誌データベースからリンク・リゾルバを介して機関リポジトリへ、という流れが実現できるはずである。

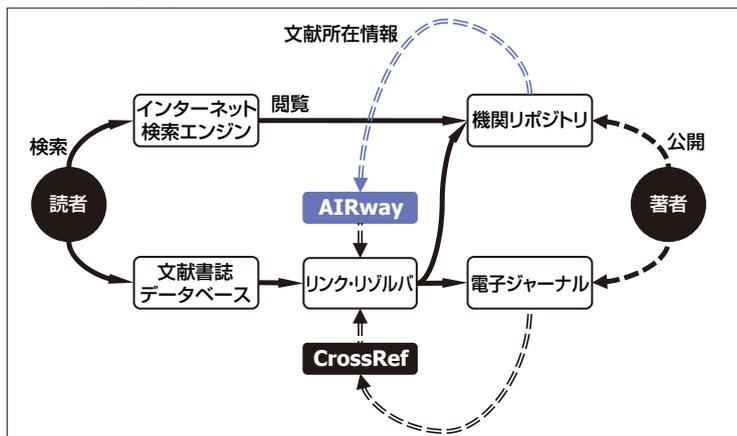
● AIRway

この仕組みを実装したシステムが「AIRway」だ。AIRwayは、現在、国内の一五大学及び英国クランフィールド大学の機関リポジトリの文献情報を集積し、リンク・リゾルバ「SFX」(ExLibris社)、「ワールドキャット・リンク・マネージャ」(OCLC)に組み込まれている。

平成一八年一月の稼働以降の利用状況分析によれば、対応リンク・リゾルバ導入機関において、九三%のケースでは購読電子ジャーナルが閲覧され、七%のケースで機関リポジトリ上の文献が閲覧された。その分、電子ジャーナルへのアクセス権限のない潜在的読者の需要に応えることができたといえる。

世界の機関リポジトリには三〇〇万編の学術文献が収載されている。これは、全体としてJ・S・T・A・G・Eを超え、C.N.I.に匹敵する規模だ。現在AIRwayでは、文献ナビゲーション効果をさらに高めるべく、より多くの機関リポジトリの情報を組み込み、より多くのリンク・リゾルバ製品に組み込まれるよう、業界内の広報普及活動に努めている。

図2 文献本体へのナビゲーション



しかしまた一方、さまざまな電子コンテンツの最適な統合的利用環境の実現を考えるにあたり、リンク・リゾルバを含む既存の技術は、昨今の情報技術の進展スピードからすると、多かれ少なかれ過渡的なものと考えざるをえない。研究者の情報探索行動に見合ったさらなるシステム改善、新たな枠組みの創出に努力していきたい。

（すぎた しげき／北海道大学附属図書館）